



31 ローターリー
米山奨学生
学友会[関西]

ROTARY YONEYAMA
SCHOLARSHIP ALUMNI
ASSOCIATION KANSAI 2015

CONTENTS

Chapter 01 あいさつ

米山学友会より

何玉翠会長.....	05
韓国学友会 全炳台会長.....	06

米山奨学委員会より

若林 紀男 常務理事.....	07
近藤 菜穂子 委員長.....	08
福田 治夫 副委員長.....	09
古城 紀雄 副委員長.....	10
田中 隆弥 副委員長.....	11

カウンセラーより

西村恵一 カウンセラー.....	12
------------------	----

奨学生より

馬焜然.....	13
----------	----

Chapter 02 奨学生スピーチ

2014-2015 年度奨学生スピーチコンテスト

目に見えないものを大切に

馬 恵英.....	16
-----------	----

米山奨学金を選んだ理由と 米山奨学生として感じたこと

マダガスカル.....	18
-------------	----

私の小さな異文化体験

張 雪晴.....	20
-----------	----

それだからこそ米山奨学生

朴 商云.....	22
-----------	----

日本での成長と今後の抱負

郭 名純.....	24
-----------	----

国際親善に文化のチカラを

仵 启帆.....	26
-----------	----

米山奨学金の本当の価値

アリフ・ザイニ.....	28
--------------	----

米山奨学生として感じたこと

テキシヨウ.....	30
------------	----

ひろげたい！人づくりの輪

潘 自力.....	32
-----------	----

次世代につなぐ

国際親善とロータリー精神

金 東右.....	34
-----------	----

Chapter 03 年間行事

報告書類

2013 年度決算書.....	37
2014 年度予算案.....	38
2014 年度行事.....	39

2014 年度行事報告

2014 年度米行事代表写真.....	40
初韓国総会～ 関西チーム9名.....	42
台湾台北米山学友総会に 参加した感想について.....	44
2014 年度米山総会及び 新規奨学生歓迎会報告書.....	46

Chapter 04 会報に関して

学友からの一言

学友会の皆さんより.....	48
----------------	----

募集要項

来年度 32 号の募集要項について.....	50
------------------------	----

編集後記

編集チームより.....	51
--------------	----



Did you know? 関西米山学友会の豆知識

About Yoneyama Scholarship Alumni Association

学友会とは？

本会は、元・現米山奨学生間の交流を通じて、親睦および互助を促進すると共に、国際親善・世界の平和に寄与することを目的とする非営利組織です。

イベントなどの最新情報を提供

本会は、ホームページや Facebook 等による運営を行っております。また、メーリングリストによる一斉送信も行っております。皆さまのご登録、心からお待ちしております。

Webside: <http://yoneyama2660.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/yoneyama2660>
Email: yoneyama2660@gmail.com

学友会の会員になる方法

関西に在住の元米山奨学生（O.B.OG）現役奨学生の方々は全員は本会の正会員、準会員とする。関西近辺にいる学友の皆さま、是非一緒に本会の活動にご協力、ご参加をお願い致します。

会費は必要ですか？

年会費は 2012 年度により廃止されました。
※但し、活動参加費のみ徴収しております。

学友の活動とは？

異文化理解から語学力発揮、ボランティア活動から地道なお手伝いまで、学友たちが力になれるところで、今までの恩に感謝する気持ちを込めて貢献しております。

Chapter 01 あいさつ

米山学友会より

飲水思源

何玉翠 会長..... 05

關西米山學友會何玉翠會長との出会い

韓国学友会 全炳台会長..... 06

米山奨学委員会より

2つの宝

若林 紀男 常務理事..... 07

3つの実践

近藤 菜穂子 委員長..... 08

出逢えてよかった

福田 治夫 副委員長..... 09

米山学友との海外での邂逅

古城 紀雄 副委員長..... 10

奨学会へのことば

田中 隆弥 副委員長..... 11

カウンセラーより

カウンセラーからの言葉

西村 恵一 カウンセラー..... 12

奨学生より

米山奨学金と私の関わり

馬 焜然..... 13



飲水思源

米山奨学生学友会(関西)

会長 何玉翠

世話クラブ：1987-1989 奈良 R C

飲水思源とは物事は源について考えること！何回も繰り返し言うようで私達米山奨学生、米山学友の源は米山記念奨学金制度です。この奨学金制度がなければ、米山奨学生として日本の社会、文化をさまざまな奉仕活動を通して、理解したり、体験したり、して社会に貢献する機会もないでしょう！

最近関西米山学友会は非常に元気です。日頃学業、仕事で忙しい学友先輩・後輩たちは世話クラブの方々とは事情があって連絡がとれない、あるいは遠方で難しい、しかし受けた恩は何かの形として返したい、そこで学友会の活動に積極的に参加集まってくる人が殆どです。

学友会にきて始めて出会った人も、最初はちょっと不安と思いますが、でも、わたし達米山学友は共通の言語、そして、共通の話題があります、それは日本語と米山記念奨学生生活です。更に地区各クラブの応援活動・学友会主催の活動などを通して絆が深くなっています。国内学友会活動だけではなく、2014年11月韓国米山学友会総会、12月台湾扶輪米山会総会にも一緒に参加して、初海外総会に参加する学友たちも韓国学友と、台湾学友と初対面でもあり得ないくらい

親しい感じ！そこで、証明したのは米山は国境がない～学友会も境界線がない、どこでもあなたをあたたく迎えてくれるのです。

特に韓国米山学友会全炳台会長ご夫婦が連続2年間関西米山学友会の総会に駆けつけてくれている上に、台湾総会まで一緒に参加して、本当に感謝です。米山学友間のネットワークと協力関係が私達の交流により更に緊密になることをおおいに期待しています。

現在2万人に達している米山学友は私達生涯の友、生涯の財産とも言えるでしょう！

この2年間会長として在任中、たくさんの出会いと交流、言葉では表現できない幸せと感謝の気持ちでいっぱいです。今後ともこのご縁を大事にしていきたいと思います。



關西米山學友會

何玉翠會長との出会い

韓国ロータリー
米山記念奨学学友会 (KRYS)

会長建国大学教授
全炳台

東北大農学部 80-83 年

韓国の建国大学に語学研修を来た林小微さんの勧めで 2013 年 7 月 7 日関西米山学友会総会に出席したことがきっかけとなって、2014 年に総会にも参加をしながら、非常に近い仲になった。特に歌をうまく歌う夫と住んでいる何玉翠関西の学友会長と考えがよく合っており、今後、多くの仕事を一緒にするという確信を持っている。2014 年 11 月に韓国の学友会総会に何玉翠会長をはじめ、関西米山学友会で多くの祝賀客が参加してくれた、そして 12 月には中華民国扶輪米山會総会に出席しようという約束を守った。この席で、私は何玉翠会長と一緒に国際米山學友會を創立するという意志を宣言した。

そして、その日の夜中華民国扶輪米山會林維宏理事長も参加するという約束を受けた。創立総会は、2016 年 7 月に大阪ですることにした。まず大阪、韓国、台湾学友会が創立をさせて、その後、それぞれの国に参加を勧めする予定である。それぞれの国の米山出身はすべて、その国の知識人であり、指導者たちだから、それぞれの国のメンバーと文化を交流し、お互いの理解度を高めながら、深い友情を築いていけば間違いなく私たちの集まりは、個人的な良い友達が生じるものであり、これはお互いにの情報交換などに助けはもちろん、国家的な親密度を高めるのにも大きな貢献をするものと確信をする。

私は関西学友会を 2 回参加しながら、多くの刺激を受けている。前回台湾学友会に出席したときは、日本の留学生を受け入れ、奨学金を与えることを見て、より大きな刺激を受けた。今後も引き続き参加して継続的な刺激と今後国際米山學友會を運営するよいデータにしようとする。



米山学友会の宝、林小微さん！これからも元気に、目標に向かって、米山 OBOG が頑張れば、少しでも世の中に役に立つと信じています。
この機会を頂き、どうもありがとうございました。



2つの宝

国際ロータリー 2660 地区
米山記念奨学学友会常務理事
若林 紀男

学友会の皆様は
2つの大きな宝を得られたと思います。

1つは、もうすぐ 20,000 人を越えようとする学友会の仲間を得られたことです。

60 年以上の歴史を経て、今や学友会メンバーは世界に輪を駆け活躍しておられます。

異国である日本の地で、文化の違いや言葉のハンディなど悩みを抱えながら学問に励まれ、米山記念奨学生として経験したことは、時代を越え心から共感し合えるものがあり、絆は深いと存じます。

世界に広がる学友会のネットワークは、皆様それぞれの夢の実現に大いに支えとなることでしょう。

もう 1 つは、お世話クラブのロータリアン、とりわけカウンセラーの方です。

皆様の努力を間近で見守り応援してきたロータリアン

は、米山記念奨学生の間だけの関係ではなく、これからの人生にも大いに支えになり、お互いの人生に影響し合えることをたのしみにしています。

出逢えた縁に感謝し、未永く交流を続けてほしいと願うものであります。

2つの宝を大切に母国で、日本で、世界で、皆様が活躍されることをお祈りしています。



3つの実践

国際ロータリー 2660 地区
米山奨学委員会
2014-15 年度委員長
近藤 菜穂子



この度は、無事に米山奨学生の期間を終了された皆様、おめでとうございます。そして、新たに学友会に入会されたことを心より嬉しく感じており今後の活躍を期待しております。

さて、もう一度原点に戻って見ますと米山奨学事業のミッションは「将来、母国と日本の架け橋となり、国際社会で活躍する優秀な学生を奨学する」ことです。1～2年間、世話クラブやカウンセラー様、多くのロータリアンと関わるにより様々な「気づき」や「経験」そして「感動」などがあったことでしょう。終了して母国に帰る人、研究室でさらに学問を究めていく人、企業に就職する人、家庭に入る人など進む道は違っても皆さんが活躍する舞台は広がっていくことと思います。

今後の皆さんの活躍を期待して、次の3つのことを実践していただければきっと新しい未来が応援してくれるでしょう。

1つ目は「目標を持つ」ということです。夢と目標は違います。夢は果てしなく大きなものですが、その夢を実現するためにもしっかりと目標を掲げることで、目標は少し背伸びしたら届くようなものに設定し

て、少しずつマイルストーンを置いていき夢へ一歩ずつ近づいていくことが大切です。

2つ目は「自分から進んで行動する」です。自分で考えて、自分で決めるということです。今ある結果は全て自分で選んだ結果です。人生は誰のものでもなく自分のものです。自ら主体的に行動するという積み重ねが自分を成長させてくれると思います。

3つ目は「相手を理解してから自分を理解してもらう」ことです。皆さんは異文化コミュニケーションを通して異文化についての共通点や相違点など肌で感じたり体感されたでしょう。まず、相手の気持ちや心を理解しないと自分自身も理解してもらえないということは経験済みのことと思います。

この3つは新しいことではなく、すでに米山奨学期間中でロータリアンの皆様より学んだことでもあったり、実践されたこともあるでしょう。そのような、貴重な体験を忘れずに、さらにロータリーとの絆を深めていただき、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献することを一緒に実現していきたいと心より願っています。

米山奨学会への ことば

国際ロータリー 2660 地区
米山奨学委員会
2014-15 年度副委員長
田中 隆弥



先日、第2014学年度の米山記念奨学生の終了式が行われました。今後米山学友としてご活躍を心より祈念致します。

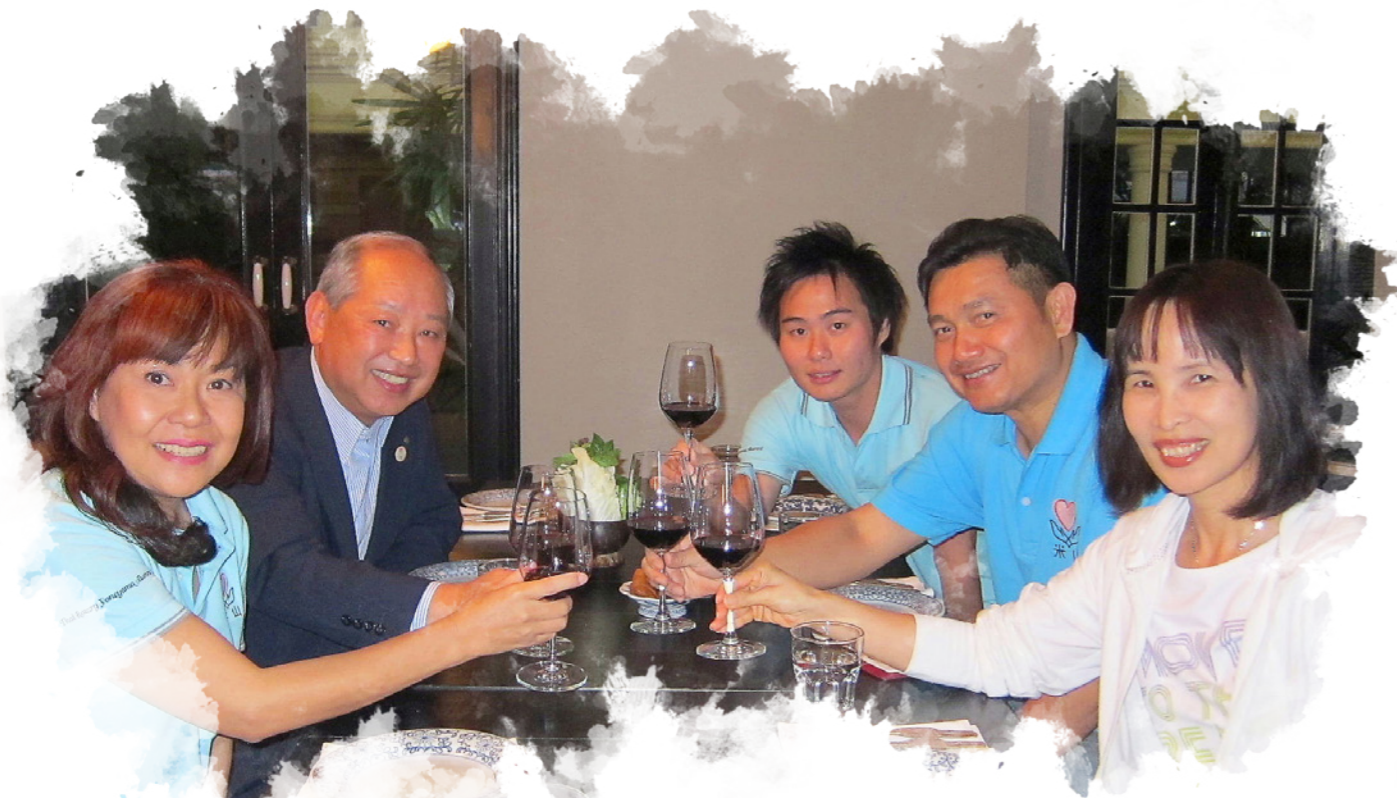
さて、2014年1月に面接試験を受け、見事合格した25名の奨学生につきまして、近藤菜穂子委員長の発案で6月と11月の二度にわたり20分ずつ個別面談を行いました。選考後、世話クラブにお預けした奨学生を、人材育成の観点から「奨学生を受け入れてよかった」「奨学生を通じ、米山奨学事業を深く理解することができた」とカウンセラーや世話クラブの各ロータリアンに思ってもらえるように地区委員会として指導しました。

6月は4月のオリエンテーションから間がないこともあり奨学生は一樣に緊張気味でしたが、面接試験ではないこと、オリエンテーションのおさらいも兼ねていることを説明し、主にカウンセラーや世話クラブの交流の仕方についてアドバイスをすると面談が終わるころには皆良い表情に変わっていました。

11月になるとすべての奨学生がいきいきと輝いていました。カウンセラーや世話クラブとの交流について本当に楽しそうに語ってくれて充実した生活を送れているようでした。良い奨学生を選考できた安堵感と共に、お世話頂いたカウンセラーや世話クラブの各ロータリアンに感謝する次第です。

これから学友となっても、カウンセラーや世話クラブから受けた恩を忘れず日本と自国との平和の架け橋となって活躍してください。





米山学友との 海外での邂逅

みなさんこんにちは！R I D 2 6 6 0米山奨学委員の古城です。この2月初旬、乾季で比較的冷涼なバンコクを訪れた機会に、当地で活躍中の米山学友と語らうべく、米山本部事務局の助けをお借りし、3人の学友プラス家族一人の4人と会食する機会を持ちました。以下に簡単に報告します。今回中心となって素敵なお店を準備してくれたのは、すでに2度関西での米山学友会（関西）の総会に参加のワシンさん（写真右奥）でした。

ワシンさんの他、2660地区の新大阪RCが世話クラブであったMS CHUTIKAN TEPSARNさん（写真左前）、および博多で米山奨学生であったMR WARAWUT BUNRODさん夫妻（写真右前、夫妻ともに日系企業に勤務）が来てくれました。

WARAWUTさんは現在タイ米山学友会の副会長兼事務局長的役割も果たしつつ、3月15日に開催予定のタイ米山学友会の総会は3月15日に向けて大活躍の様子でした。CHUTIKANさんはISO認定関係の日系企業の部長として東奔西走されている様子で、いずれも国際人材としてしっかり毎日を送っていることがよくわかり、実に嬉しい限りでした。

国際ロータリー 2660 地区 米山奨学委員会 2014-15 年度副委員長 古城 紀雄

話題は、日本留学時代のつらかったことや印象に残っている喜び、そして世話クラブのカウンセラーの方々と楽しい思い出に及び、また、タイ人と日本人の基本的気質の違いなどについても時間をかけて意見交換し、充実感あふれるひとひきを過ごすことができました。正統派タイ料理をみんなで分け合いながらの語り合いに、つついワイングラスがすすんでいつも以上に楽しんでしまい、なにやら別れ難く、それでも微笑みつつ、7月5日開催の米山学友（関西）の総会での再会を約して帰途についた次第です。

ロータリアンのみなさんには、殊に外国を訪問する際には、米山本部事務局にひと声かけて、当地の米山学友との出会いを企画し、活躍ぶりを目の当たりにする機会をもたれたらいかがでしょうか。



出逢えてよかった

国際ロータリー 2660 地区 米山奨学委員会 2014-15 年度副委員長 福田 治夫



この度は、無事に終了され学友会に入会されたことを嬉しく思います。

「出逢えてよかった」を2015～16年度地区米山奨学委員会のテーマにしました。

これは、カウンセラーはじめ世話クラブのロータリアンのみなさんと奨学生が「face to face」のお付き合いを通して学んだ、教科書だけではない色々なことを、これからの人生に生かす。それが世話クラブ・カウンセラーが「お世話して本当に良かった」と感じるからです。

学友のみなさんは、私よりはるかに若いです。日本にはこんな言葉があります。「若いうちは、買ってでも苦労をしる！」つまり、いずれその経験が血となり肉となるからです。みなさん、苦労してください。

さて、学友・学友会には、大きな使命が三つあると考えます。一つ目は、もちろんこの同窓会のヒューマンネット

ワークを生かして、社会で活躍する事。二つ目は、母国からの後輩の奨学生の面倒を見る事。三つ目は、学友会及び学友が社会で活躍する事が、ひいては後輩のための米山記念事業を発展させることにつながるからです。奨学事業は息の長い取り組みですので、みなさんは功を焦らず地道に頑張ってください。

残念ながら、音信不通になる学友がいるのも事実です。みなさんは、せっかくの縁で知り合った世話クラブ・カウンセラーの方とは必ず連絡をとってください。忙しい時もあるでしょうから長い手紙でなく一筆箋程度で十分です。そうすることによって、お互いに「出逢えてよかった」気持ちが続きます。また世話クラブ・カウンセラーが、新たな奨学生との出会いを楽しみにするようになります。それが、人と人の輪を広げることになります。

最後に、関西学友会と地区米山奨学委員会は車の両輪です。お互いに支えあいながら、ともに発展することを念じています。

カウンセラー からの言葉

国際ロータリー 2660 地区
大阪ネクスト RC

カウンセラー
西村恵一

自分は時間的にも結構自由やし、やらせてもらいまして米山奨学生のカウンセラーになりました。

子どもいないんだから親の気持ちはわからないんだけど、でもこの子と接してたら、自分はどうでもええけど、この子に苦勞はさせられんみたいな気持ちが強く強わいてきた。

20代の時、ロータリークラブのグループスタディエクスチェンジというプログラムでアメリカに行かせてもらって、ほんとにかけがえのない経験をさせてもらって、このご恩をいつかお返ししたいと強く思いました。

親から「ひとの役に立つことせえ」と日頃から言われてんねんけど、ぼやぼやしとったら10年20年ぼろくそに過ぎよる。。

まあ今日は「感謝状もろたで」言うたら母も喜んでくれるでしょう。。

晴ちゃんへ「この一年なんにもしてあげられなかったけれど一年間ありがとう。

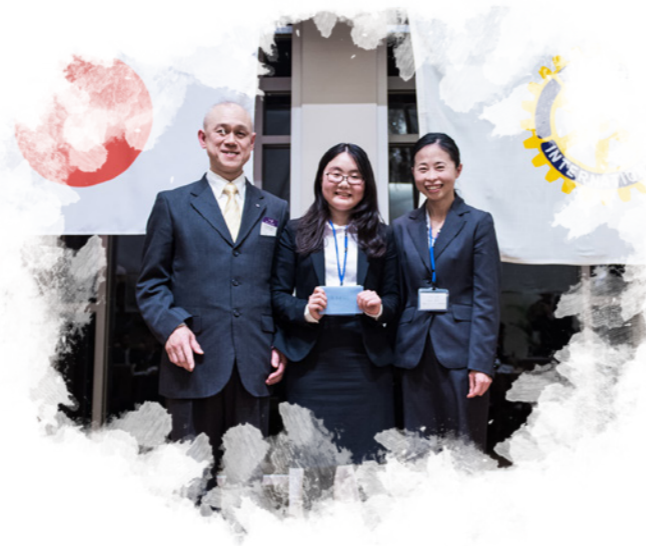
なにもしてあげられなかったけれど、僕は子どもを持った親の気持ちがわかったような気がしています。これから進学も決まり、まだまだ大変だと思いますが、

僕があなたに願うことは、からだに気をつけて過ごしてほしいということだけです。

僕も少しでも成長していきたいと思っています。これから一緒に成長していきましょう。

これからは少しはあなたの力になれるようにがんばりますので、困ったときはいつでも相談してください。

あなたに会えて
ほんまにほんま幸せです。」



米山奨学金と 私の関わり

国際ロータリー 2660 地区

大阪難波 RC 奨学生

馬煜然

大阪大学薬学研究科の修士二年生、馬ゆらんと申します。出身地は、中国浙江省の嘉興市であり、学部
の五年間は、中国の北の地方、瀋陽で過ごしました。
2012年8月、渡日して、大阪大学に入学することが
できました。また、今年の4月から日本の企業で働く
予定です。

私は外国人であり、日本へ来た後一番感じたことは、異文化の交流が増えてきます。研究室に、外国人が私
しかいませんので、たこ焼きパーティー、花見、国際
茶会などの活動を通して、日本の文化を体験しました。
また、大阪において外国人が多いですから、日本人だ
けではなく、色々な国の出身の友達が作られてしまし
た。同じ研究科の先輩が米山奨学生でしたから、ロー
タリー米山記念奨学会のことを初めて聴いて、とても
素晴らしいと思います。私は、「米山奨学会の支援を
頂いたら、どうになりますか」と思ったとき、想像で
きませんでした。

その後、米山奨学生となります。懇親会、毎月の例
会および様々な活動に参加し、色々なことを勉強して
頂き、成長できました。

まず、ここが、日本社会に触れる新しいアクセスで
あると思います。クラブの会員達が様々な業界のリー
ダーであることから、私は自分の所属する薬学に離れ
て、違う分野のこともたくさん聞いて、視野が広げて
きました。そこで、私の就職活動にも役に立って、自

分の考えを持ちながら、多面的に考える力を育てます。

また、もっと多国籍の友達が作られ、異文化が深く
理解されます。人間とコミュニケーションの一番重要
なものは何でしょう。私は「真の心」と思います。ど
の国においても、どのような文化を持って、嘘をつ
かないで、お互いを了解して友達を作ります。ロータ
リー米山において、同じ考えを持つ友達がいっぱい作
られ、私の宝物になります。

この上で、日本だけではなく、世界へ探索する勇気
が出されてきて、奉仕の心も深刻に覚えてきます。私
にとって、国別という意識がだんだん薄くなり、どこ
でも友達がいると思います。従って、どこへも行って
みたいです。また、幸せの価値は、人によって違いま
すが、どんな形に関わらず自分にプラスになった部分
を世間に還元するような行動を行ったら、自分の喜び
も他人の喜びも実現できると考えます。ロータリー米
山を通して、「人間愛」と「自然愛」を含む奉仕の心
を深く覚えてきます。

この一年間、物質的なものより、精神的に成長する
ことができます。これからも、ありがとうという気持
ちを持ちながら、ロータリー米山の理念をより多くの
人々に伝えたいと思います。

一年の感謝



Chapter 02

奨学生スピーチ

2014-2015 年度奨学生スピーチコンテスト



「全員集合」集まれ～～

ガバナーより

国際ロータリー第 2660 地区
2014 - 15 年度 ガバナー

泉 博朗 (Izumi Hiroaki)

目に見えないものを大切に

馬 惠英..... 16

米山奨学金を選んだ理由と 米山奨学生として感じたこと

マダガスカル..... 18

私の小さな異文化体験

張 雪晴..... 20

それこそ米山奨学生

朴 商云..... 22

日本での成長と今後の抱負

郭 名純..... 24

国際親善に文化のチカラを

件 启帆..... 26

米山奨学金の本当の価値

アリフ・ザイニ..... 28

米山奨学生として感じたこと

テキショウ..... 30

ひろげたい！人づくりの輪

潘 自力..... 32

次世代につなぐ

国際親善とロータリー精神

金 東右..... 34

米山奨学金と 私の関わり



最優秀賞

大阪スクールオブミュージック専門学校
TV制作・ディレクターコース

馬 恵英 (台湾)

世話クラブ：大阪咲洲RC



「人を見るとき大切なのは、見えるものより見えないもの。

思いやり、純粋さ、素直さ、優しさ。

目に見えないものを大切に！」

これは、クレヨンしんちゃんのお父さん、ひろしが映画で言ったセリフです。人を見るとき大切なのは、目に見えるものではなく、目に見えないものだ。これは、私が米山奨学生になって、学んだ一番大切なことです。今年の春、米山奨学生に選ばれ、早くも半年が過ぎました。この半年の間、米山奨学生として、色々な行事に参加し、ロータリアンの方々や、多国籍の学友及び奨学生に沢山出会い、貴重な時間を過ごすことができました。

同じ留学生として、それぞれの夢に一步近づこうと努力している奨学生の皆さんや、留学生生活を終え、今は日本と各国の架け橋となり、自分の専門分野で活躍している学友の方々、そして、そんな奨学生と学友を物心両面から支援して下さるロータリアンの方々がいる、素敵な環境に恵まれた私は本当に幸せ者だと思っています。

私の世話クラブである大阪咲洲ロータリークラブでは、ロータリアンの皆さんがいつも笑顔で迎えて下さって、例会に参加する時、いつも温もりを感じます。例会が終わった後いつも「ありがとう」と言って下さ

る会長さんを見る度に韓国にいる父のことを思い出します。そして、就職活動をしている間は、クラブの皆さんから大きな応援とアドバイスを頂き、最後まで諦めずにやり抜くことができました。おかげで内定を頂き、TV業界で働く夢が叶いました。

また、例会以外の懇親会や、グルメ会などにも参加して、美味しいものを沢山ご馳走して頂きました。その中でもグルメ会の時食べた日本食の土瓶蒸しがとても美味しかったです。最初名前だけ聞いた時は虫を食べるのかと思って、心配しましたが、松茸が入っている汁物の料理だということを知り、本当に虫の料理じゃなくて良かったとほっとした記憶があります。

今まで参加したロータリーの行事で一番印象深いのは、7月に行われた米山総会です。そこには日本国内だけではなく、韓国や台湾などの外国からも沢山の方が来て下さいました。そして、OBの学友の方々も来て下さって、そこは私が今まで目にしたことのない、正に国境を越えた友情の場でありました。国と国、民族と民族としてではなく、人と人として向き合い、素直に接することができる場所でした。そして、それが今を生きる中で最も大事なことだと思います。私は目に見えることだけを信じて人を判断することで偏見が生まれるのだと思います。

私も日本に来る前までは、いくつかの偏見を持っていました。日本人は皆個人プレーで、他人には興味をあ

まり持たないとか、日本人は皆消極的で外国人に対して警戒心を持っているとか。しかし、日本に来て、それは私の偏見であって、日本について多少は知っていたつもりだったのに、私は今まで本当の日本、そして日本人を知らなかったんだと思いました。実際の日本には、私のことを自分のことのように心配してくれる人や、積極的に話し掛けてくれる人も多くいます。

長い間問題になっている反日問題や、日本で強まっているヘイトスピーチなども、偏見が生み出した怒りや、恨みによるもので、彼らは、本当の日本人を知らない、そして、同じく本当の韓国人を知らないからだと思います。国、そして、歴史や政治問題を中心に置かず、人と人として接することで、その心の壁を壊すことができると思います。

私は生まれた時からずっと教会に通っています。キリスト教で一番大切にしているのは、「愛」です。その「愛」は、「包容」であって、「理解」や「許し」、そして「哀れみ」でもあります。私はそういう「愛」の溢れる人になりたいです。そして、そういう「愛」が沢山積もっていて、韓国、台湾、中国、そして日本の良いところを沢山紹介して、互いに持っている偏見を壊し、素直に互いを見つめることができる番組を作るのが私の夢です。

再びクレヨンしんちゃんのお父さん、ひろしの言葉を借りて、私の話を終えようと思います。



「可能性が0になるとき、それは、“あきらめたとき”あきらめなければ可能性は限りなく0に近くてもあるんだよ。」

夢のある奨学生の皆さん！

ロータリー活動を通じて学んだことを胸に刻み、それぞれの道で日本と各国を繋ぐ次世代のリーダーになりましょう！



米山奨学金を選んだ理由と 米山奨学生として感じたこと



特別賞

大阪大学 電気電子情報工学専攻
世話クラブ：摂津RC

RAMANANARIVO
MIHARY FIDERANA
(マダガスカル)



その一、米山奨学金を選んだ理由。

RAMANANARIVO MIHARY FIDERANA 様、あなたは、平成 26 年度本学大学院修士課程入学試験に合格しましたので、通知します。」「やった」。

その翌日、「君はこれから、学費どうするの。」と先生から聞かれました。私は「はい、私は、これからアルバイトをたくさんして、アルバイトで学費を賄いたいと思っています。」と答えました。「アルバイトばかりすると研究はどうなるの」と先生が聞きました。先生は僕がアルバイトすることを望んでいませんでした。

つまり、私がアルバイトで生活すると研究室から追い出されてしまうかもしれないのです。

それで、研究室から追い出されないように、お金が欲しくて奨学金に応募しました。しかし、お金の問題を解決したかっただけだと、私がこの米山奨学金ではなく、別の奨学金を選ぶことにしたでしょう。

なぜなら、別の奨学金では銀行振り込みだけで済ませることができるし、毎回例会にわざわざ行かなくても良いし、様々なイベントに行く義務もなく、非常に便

利だからです。では、なぜ私が別の奨学金ではなく、米山奨学金に応募しましたか。お金以外にも別な理由があるからです。

それはロータリークラブが奨学金とともに人材育成を行っているからです。様々なイベントを介して、米山奨学生がコミュニケーション力、リーダーシップ力、などを高める機会が与えられるのです。

私はそれらの機会をつかみたいからこそ、米山奨学金を選びました。また、銀行振り込みのように「機械」ではなく、人と人のやり取りで「心」を通わせて奨学金が渡されるからです。そうすれば、与える方々にも喜びの気持ち、奨学金をいただく私にも感謝の気持ちが強く伝わるのです。

その二、米山奨学生として感じたこと。

「始めまして、宜しくお願いします」、「始めまして、宜しくお願いします」。それは、世話クラブの最初の例会前に、何度も繰り返し、練習した言葉でした。世

話クラブの皆さんに素晴らしい第一印象を見せたかったからです。

「始めまして、宜しくお願いします」。ところが、例会場に入ると、緊張のあまり、「励まして、ありがとうございます」と言ってしまう。あわてて、「ごめんなさい」か「すみません」かどちらを言えば良いか困っていると、驚いたことに相手が、「大丈夫、そんなに緊張しなくていいから。」と私を励ましてくださいました。それがきっかけで、米山奨学生として最初に感じたことは歓迎と理解の気持ちでした。

世話クラブの皆さんは、私を丁寧に歓迎し、私が留学生であること、日本語が完璧に話せないことなどを理解していただいたのです。特に、カウンセラーの樋上お父さんには大変お世話になり、お父さんの家に泊まったり、一緒にソフトボール、ゴルフなどをしたりしました。

また、ロータリーの青少年養成プログラム RYLA に参加したことで、前に述べたリーダーシップ力・コミュニケーション力が大きく改善したことを感じました。

これらのスキルを利用して、国際親善・世界平和に貢献できるような人材になるように活躍したいと思います。

以上で、米山奨学金を選んだ理由と米山奨学生として感じたことを述べました。

最後に、このスピーチで一番大切なことを言います。ロータリークラブの皆様、ありがとうございました。これからも私を暖かく見守ってください。

ご清聴、ありがとうございました。



私の小さな異文化体験



優秀賞

大阪ヒカロジ-専門学校 日本語専攻
世話クラブ：大阪ネクストRC
張雪晴（中国）

皆さん、こんにちは。

皆さんは、「日本での異文化体験」と聞けば、まず、どんなことを想像されますか。お茶やお花でしょうか、確かにこれは立派な異文化体験ですが、私はこの一年で日常生活の中にこそ、おもしろくて小さな異文化体験が隠れていることに気が付いたのです。

私は張雪晴と申します。昨年の10月に日本に留学して、今年の4月から大阪ネクストロータリークラブにお世話になっています。例会では時々クラブの皆さんに食事に誘っていただきます。ある日、そこで、「あれ、なんでやる？」と思ったことがありました。それはお箸の置き方です。

中国では一般的にお箸を右側に縦に置きますが、日本では、皆さんお箸を横にして置いています。「えっ、横に置いたら、食べるときお箸を取りにくくなるんじゃないか？」そう思って聞いてみると、日本では、お箸の尖った部分を人に向けるのは失礼だということがわかりました。日本人は自分が食事をするときの便利さより、席の向こうにいる相手の気持ちを考えて、食事をしているということに気づき、ここまで考えながら食事することに驚きました。

相手の気持ちという、こんな経験もあります。ある日、もう夜も遅かったんですが、JRの京橋駅の改札口の前で女の人にぶつかってしまいました。私はカバンの中に入れた乗車券を探しながら下を向いて歩いていたからです。慌てて「すみません」と言うと、何と

相手の女性も「すみません」と言いました。悪いのは明らかに私だったので、相手は謝る必要がなかったのに、その人は確かに「すみません」と言いました。

中国ではこのような場合、ぶつかられた人が謝ることはほとんどありません。「聞き間違えたのかな？」「日本人は礼儀正しい謝りよったのかな？」、その時はよくわかりませんでした。

でも、このようなことが、2、3度あった後、私は相手の「すみません」は謝っているのではなく、「お互い様ですよ」という意味で、うっかりぶつかってしまった私の気持ちを気遣ってくれたことに気が付きました。この言葉を言われたとき、確かに私は「あ、しまった」という罪悪感がなくなって、気持ちが楽になりました。そして、驚くことに、いつの間にか私も他の人にぶつかられたとき、自然に「すみません」と言っていました。

それだけではなく、「すみません」と言いながら、私自身が心地よく感じていることにも気が付きました。みんながこのような気遣いを持っていれば、忙しく慌ただしい毎日も気持ち良く生活できるのではないかと思います。

奨学生の皆さんは、皆さんのそれぞれの国にももちろん相手をお気遣い、思いやる言葉や行動があると思います。私たちはつい、自分の国の習慣や文化を中心に考えてしまいがちですが、せっかく日本で暮らしている



ので、奨学生の皆さんもぜひ生活の中の小さな異文化を探してみませんか？

ロータリーには世界各国からいろいろな文化や習慣を持った人が集まっています。今までいくつかの活動に参加しましたが、お互いに仲良く、相手の文化を尊重し、相手を気遣いながら活動をしてきました。

ロータリーの活動こそ、相手を気遣い、思いやりの心で異文化理解ができる最高の場だと言えるのではないのでしょうか。

私はこの活動を通じて、これからも、日本だけではなく、皆さんの国の文化や習慣を知り、異文化の中から、いろいろな価値観を見つけたいと思います。

そしてこの活動の中で「心遣い」つまり「相手を思い

やる気持ち」を身に付けていきたいと思っています。来年、ロータリーを卒業しても、今の気持ちを持ち続け、後輩にもこの「心遣いの大切さ」を伝えていきたいです。

以上です。ご清聴ありがとうございました。



それでこそ 米山奨学生



特別賞

摂南大学 電機電子工学専攻

世話クラブ：香里園RC

朴 商云
パクサンウン（韓国）



2014年4月8日私が米山奨学生としてカウンセラー先生と出会った日です。「どんな方だろう。どんな話をするんだろう」と先生を待つ間ずっと悩んでいました。そこで先生がいらっしゃって簡単な挨拶の交換の後、またしばらく沈黙が続きました。「なんか話せねばいけない。で、何を話したら？研究の話でしょうか？なんで日本の留学を決めたかのお話をしようかな？」と悩んでいる私に先生は「お酒は好きですか？」と

お酒は好きだといっても留学してからはアルバイトやら、勉強やらであまりお酒を飲む機会が少なかった私に、そして、こんな難しい研究をやってます。よこうこうして日本の留学をききましたという長大なストーリーを作っていた私は、「はい、日本酒が好きです。」と氷が解けるような気持ちで答えました。これがわたしの米山奨学生の始まりでした。

オリエンテーションで米山奨学生としてまず、最初にやるべきことはロータリーアの先生方達の名前を覚えるということもあり、「よし頑張るぞ。」と思っていたところで念願の初の例会の出席日でした。「摂南大学のパクサンウンですよろしくお願ひします。」を10回くらい言った後大きな問題が発生したことに気づきました。自分は一体どの先生に挨拶をしたんだろう。あの先生に挨拶したっけ。と一人でよくもパニック状態になったのです。そんな緊張であたふたしている私に先生方達は微笑みを送ってくださいました。

数日後、移動例会でみんなで夕食をとる日がきました。そば屋での移動例会で定期例会とはちょっと違う雰囲気私の緊張も最初よりは少し解けていました。その移動例会で先生方達のロータリーアとしての気持ちはもちろん今の日本の政治、経済問題、また、私が韓国人ということもあり歴史問題など多くの話を聞くことができました。また、私もお酒の力を借りて一緒にその話に参加させていただき、いろいろ勉強ができたと思います。しかし、次の日、二日酔いで半分死んでいる状態だったのはしばらく内緒でした。

今の日本について討論し、答えを見つける。そして未来の対策など、今だけを楽しんで今だけを生きようとしている人たちに囲まれていた私には衝撃でした。それをひっくり返す先生方達の姿はまさに今の日本を築いた人たちの姿でした。

その後もお酒の席に何回も呼ばれて先生方達ともっと近くなることができたと思います。また、今までやったことのない田植えやぶどう狩り、ライブ公演など留學生活で経験したことのできない日本の文化を体験したりして、また、そこでいろんな人との出会いで幅広い分野の話聞くことができ、私は奨学生になってから学問以外に人生についてもたくさんの勉強ができたと思います。

こういった活動などで、私的には先生方達との距離

がだんだん縮んでいると思い、最近ではお父さんおじいさんにやるように甘えたりすると先生方達も息子、孫のように可愛がってくださっています。決まった就職先を報告すると家族のように喜んでいただいたのは一生忘れられないと思います。

ここまで、私が感じていたロータリーは奉仕と助け合いとは少し違う、家族のような愛の集まりで社会生活での不満やストレスを癒してくれる場所だと思っていました。しかしこれは私の短い考えでした。

最初のオリエンテーションのとき奨学生一人一人簡単なスピーチで私は「家族でも1枚のレポートだけを見て10分程度の話をしただけで月々大きい金額のお金を出すことはそう簡単にできないといいました。」これはロータリーアの先生方達が私達を信じているということでありロータリーの奉仕と助け合いはつまり、奨学生である自分に対しての理念だったということです。私みたいな留学生は家族と離れていることと長い一人生活で失っていた家族のような暖かい雰囲気と暖かい関心といった信頼のある思いやりが常に欲しいというのは皆さんも共感できると思います。ロータリーの歌でそれでこそロータリーという歌があります。どこであつてもやあと言おうよ見つけたとき



にやおいと呼ぼうよ遠いときには手を降って合おうよ
それでこそロータリーちう歌詞なのですが、ロータリーアの先生方達はロータリーの奉仕と助け合いを暖かい関心とフレンドシップとして私に見せてくださったのです。そんな先生方達に感謝の気持ちを伝えるために私はこの席に立っています。

先生方達の犠牲があったからこそ私たちは先進の教育をうけ、自分の未来を設計する事ができると思います。私達はこの辛い留學生活の中で癒してくれた先生方達のやさしい笑顔やサポートを絶対に忘れてはいけません。また、奨学金をもらっただけで終わりという考えもしてはいけません。私達はもらったばかりではなく、今まで受けてきたように将来私達たちが社会の主流になったとき、その時代の未来のある若者達の全部返すべきものではないでしょうか。そうすることで、先生方達の意志とロータリーの理念を続けるのが私達たちが米山奨学生として選ばれた理由ではないでしょうか。私達は今誰かに奉仕したり、互いに助け合ったりすることはまだ若干難しいと思います。しかし、私は今誰かに助かっている、奉仕してもらっている事実を絶対忘れず、先生方達の意志を続けるためにもお互い頑張りましょう。以上香里園ロータリークラブ米山奨学生、摂南大学パクサンウンでした。ご清聴ありがとうございました。

日本での成長と 今後の抱負

関西大学 ガバナンス研究科
ガバナンス専攻
世話クラブ：大阪中之島RC
郭名純 (台湾)



私は郭名純と申します。見た目通りにごく普通の女の子です。1988年に台湾のごく普通の家庭に四人兄弟の末っ子として生まれました。末っ子と言えば、甘えん坊で受け身というイメージを持っておられる方が多くいらっしゃると思います。「そんなことはありません。末っ子は長男、長女に負けないくらいに面倒見がよく、しっかりしていますよ」、と言いたかったのですが、残念ながら、私の場合では否定できません。私の上に姉2人と兄1人がいます。一番年上の姉とは7歳の年齢差があるため、親だけではなく、兄弟にも甘やかされてきたと思います。そうはいっても悪い意味ではありません。常に先にいる兄弟に色々教えてもらえるということです。そして、いつか何があったら、先に兄弟に相談し合うようになりました。凄く仲の良い兄弟です。

しかし、大学卒業後に日本へ留学することを決意し、初めて家族の保護の下から離れることとなりました。最初の数ヶ月は日本語の聞き取りすら慣れなくて大変でした。実家が恋しくなることが多くありましたが、台湾にいる家族を心配させないように弱音を吐くわけにはいかない、と思って連絡を抑えることにしま

した。そうしたら、徐々に自分一人の力だけでも様々な問題を乗り越えられるようになりました。甘えん坊だった自分が、周りの同じ留学生の友人たちから頼れる存在と思われました。これは日本に来てから初めて感じた成長でした。そして、親元を離れてから、家族の有り難さを再認識することができました。今まで家族にやってもらって当たり前と思ったことが、全然当たり前のことではないと、ようやく気付きました。

今までの留学生生活を振り返ってみると、2年半というのはあっという間でした。来日して1年目に語学学校を通いまして、先生や友人に恵まれ、日本語の学習に関して楽しい思い出がたくさんできました。その後、更に日本の大学院に進学することになりました。院生になって学業に励んでいた日々で重大な転機が訪れました。それは、ロータリー米山記念奨学会にお世話になったことです。今年の4月にロータリー米山奨学生として活動し始めてから、自分は確実に成長している、と実感したことがいくつかあります。

まず1つ目は、人前で話すことを避けていた自分が、今のように、多くの方の前に立ち、このようにスピーチをすることが既に自分の想像を超えております。ロータリー米山奨学生になってから、いくどとなく人前に立って話す機会はありませんでしたが、正直未だに緊張してしまいます。しかし、最初に比べて慣れました。苦手意識を変えることによって克服できると信じています。チャンスに恵まれた環境で自分自身を磨き、もっと思いを伝えられるようになったらと思っています。



2つ目は、台湾や日本の文化への理解を深めようとしていることです。異文化交流の会話の中で、台湾について質問されても上手く答えられず反省することが多かったため、改めて自分の国のことを理解することに努めました。また、日本で生活することがきっかけで日本の歴史の深さに感激しました。奨学生となったことで、生活に時間的な余裕ができましたので、少しずつではありますが、世界遺産巡りやお城巡り、また日本の伝統的な文化体験、例えば茶道や華道といったことを経験したいと思っています。

私はごく普通の女の子でした。今まで家族、友人、先生そしてロータリー米山奨学会の皆様を支えられたことによって、夢を叶えられたと思っており、感謝の気持ちでいっぱいです。これからもロータリー米山奨学生となって得た経験を生かして、誇りを持ちつつ、挑戦する心と奉仕の精神を忘れずに頑張っていきたいと思っています。



国際親善に 文化のチカラを

大阪大学 情報システム工学専攻
世話クラブ：茨木西RC

仵啓帆
ゴケイハン（中国）

皆様、こんにちは。中国からの留学生、ゴケイハンと申します。大阪大学大学院情報科学研究科所属、拡張現実感について研究しております。現在、茨木西ロータリークラブでロータリアンの皆様にお世話になっております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

先月、第17回アジア競技大会が韓国の仁川（インチョン）で開かれましたが、皆様は試合をご覧になりましたでしょうか。私はほとんど観られませんでした。毎日スマホで日本と中国の新聞記事、ニュースを読んでおりますので、何か面白い事がありましたらすぐ目に入ってきます。

そこである日に、ある試合のニュースに目を奪われました。それは中国のメディアによる、女子卓球団体の決勝戦の記事でした。結果としては中国が3対1で日本をおさえて勝利を収めましたけれども、どうやらこの結果より、もっと注目されていたこと、いや、もっと注目されていた人がいました。

すでにお分かりの方がいらっしゃると思いますが、それは日本の福原愛選手でした。

この二年間、領土問題の原因で、日中関係はかなり悪化してしまいました。中国での反日行為が活発し、インターネット上にアップロードされた記事が日本に関するものであれば、ほぼ間違いなく後ろに酷いコメントや、日本に対する悪口雑言が次々に付いてきます。

しかしこのような背景の中で、先ほど申し上げた卓球試合の記事の下を見たら、悪口が一切無く、あったのは福原愛選手への称賛と応援のみ。

よく記事を読めば、試合当時多くの中国人観客が中国の選手ではなく、福原選手を応援していたことがわかりました。しかも試合後の取材についても、福原選手の内容が真先に書かれていて、まるで中国側の選手が脇役になったような感じがしました。

どうしてこれほどの差があったのでしょうか。なぜ日中関係がこのように冷え込んだ時期でも、福原選手が中国人にこれほど愛されているのでしょうか。その理由はやはり、福原選手が長年、中国での勤学生生活を経て、卓球を含めて中国の文化もたっぷり身に付けたのではないのでしょうか。

生っ粋の中国東北方言を操って、笑いながら洒落をど

んどん飛ばしてくる、そういう福原選手に対して敵意を感じないわけがありません。国境を超え、お互いの理解を深め、偏見を無くす、そのチカラは正に、文化交流にあると思います。

国際親善はロータリークラブの活動趣旨の大きなテーマの一つであります。米山奨学会は我々数多くの留学生を扶助して下さる理由は、単に我々の学業に手を差し伸べることだけではなくて、一人でも多く、国際親善事業の未来の力になってほしい、という願いだと思います。

そのために、我々米山奨学生はロータリークラブでお世話になり、ロータリアンの皆様と付き合い、卓話やいろいろな活動などを通じて、ロータリー精神を実践しながら、日本の文化と深く接して、体験して参りました。そして我々は将来、一つ一つの架け橋となり、日本と母国、国々間の文化交流の力になりたいと改めて強く思いました。

「福原愛がいる限り、日中間の戦争なんてありえない」というコメントがありました。もちろんこれが冗談に過ぎない話ですが、私は敢えてこう望みます。我々米山奨学生は、少しでも多く、国際文化交流に努力を積み重ねていけば、戦争のない世界へ一歩、また一歩、確実に踏み出していくのではないのでしょうか。

最後になりましたが、ロータリー米山奨学会に深く感謝いたします。ご清聴ありがとうございました。

米山奨学金の 本当の価値

大阪大学
知能・機能創成工学専攻
世話クラブ：大阪城東RC
アリフ・ザイニ
(マレーシア)

私は1年半米山奨学金をもらい続けることができ感謝の気持ちでいっぱいです。それはたくさんのお金で買うことのできないことを頂いてきたからです。ロータリアンの方々、米山奨学金のOB・OGの方々、他の奨学生が私にたくさんのお金を与えて頂きました。

まずはロータリアンの方々からは刺激をいただきました。ロータリアンの中には政治家、医者、社長、弁護士等様々な職業の方々がおられ、どなたもご自分の分野において成功してきた社会のエリートの方々です。私は将来、自分の分野において成功した人と評価されたくて、てっぺんまで登りたいのですが、既にてっぺんにおられる方々に囲まれて、私にとっては最高の刺激になっています。ロータリアンの方々を見て、もっともっと頑張らないといけないと思います。

また、ロータリアンの方々からはたくさんのお金をいただくことができました。私たちは毎月例会に参加しています。その中で、私は卓話を聞くのが好きです。面白い面白くないかは別として、必ずその卓話から何かを得られます。この間、魔法瓶のメーカーの社長の話を聞いて、会社はこのように設立され、このように大きくなり、このように次の世代に託されるということを学ぶことができました。

他にも、地区協議会のような場の場合はロータリアンの方々の本音を聞くことができます。私たち奨学生に何を求められているのか、何を期待されているのか、

なぜ寄付をしてくださるのかを聞くことができます。その話を聞いて、私がもしロータリアンの場合を考えたらすぐ納得できるお話です。私の聞いてきた話を自分なりに解釈しますと、ロータリアンの方々私たちが奨学生に求めているのは、ただ単に一生懸命に学校に集中しながら、一生懸命に家族のような感覚で胸に飛び込み、様々なロータリー活動や遊びに楽しく参加し、たくさんのお金を友達を作ることです。またなぜ寄付をするのかはロータリアンの方々皆様々です。社会奉仕をしたいという気持ち、優秀な学生を援助したいという思い、そしてその留学生に日本との懸け橋になってもらい世界平和につなげたいという気持ちを持っていらっしゃる方が多いかと思います。私のカウンセラーの場合は何等かの形でご自分がこの世に生きていた証を残したく次世代の人間を援助することが最も効果的だと話されていました。

次に、現役奨学生、OB・OGからはたくさんのお金をいただくことができました。奨学生になりたくさんの活動に一生懸命に参加し、とても楽しかったです。私たち奨学生は母国との架け橋になることを期待されていますが正直に言わせていただきますと、それが私にとってはすごく難しい課題であり、具体的に何をすればいいのかわかりません。しかしとてあえずたくさんのお金を友達を作ることができまして、母国との架け橋になる目標には一歩近づけられたのではないかと思います。



次に、奨学金そのものから得られたことについて話したいと思います。簡単に言いますと心の余裕がいただきました。もちろん、奨学金により経済的な安定もいただきましたが、それは最終的に心の余裕につながります。今までは自分のことだけで精いっぱいでしたが、経済的に安定して、他の人のことを考える余裕ができるようになりました。私の所属しているロータリークラブは盲導犬の施設や定時制高校生や中学校の吹奏楽部等の経済的な応援をしたりして、植林活動もしています。このような周りの人が社会奉仕をしている状況の中で、心に余裕ができた私も社会奉仕をしてみました。社会からもらってばかりでしたが社会に何かの形でお返しになりました。実際に去年からは動物の保護施設に遊びに行くようになったり、病人の英語通訳をやったりして、明日はマレーシアでホームステイするインターアクトの子供たちのところに遊びに行き、マレーシアでホームステイするためのマレーシアの基礎知識について話します。

こういった理由で米山奨学金は本当に素晴らしいと思います。奨学金を留学生に渡すだけではなく、間接的に社会に貢献する教育もし、その貢献をする場も与えてくれます。

米山奨学生になり、社会のエリートから刺激を受け、たくさんのお金を友達を作ることができ、私は人間として本当に豊かになったかと思っています。4月のオリエンテーションでもお話しましたが、去年米山奨学金の面接に受かった時に、別の金額がより高い奨学金団体からの最終面接のご案内が届きました。米山奨学金は学校推薦のため断ることはできませんでしたが、もし過去に戻り自由に選ばれたとしても、私は迷わずに米山奨学金を選んでいました。なぜなら、奨学金の金額で表せないぐらい貴重な体験を得られるからです。

最後に、このような貴重な経験を、ぜひ、留学生の後輩たちにもしていただきたいと思っています。しかし次世代の留学生がこの奨学金をもらい続けるには、ロータリアンの方々、現役の奨学生とOB・OGの方々が、それぞれの役割を果たさなければなりません。そうすれば、これからも米山奨学金はきっと、50年、100年、1000年も安定して存続できると思います。私は今、現役奨学生として一生懸命に活動に参加し、卒業後はOBとして活動に参加し続けます。そして、30年後研究者として成功したときに、今度は私がロータリアンとして次世代の留学生の援助をし、世界平和のための懸け橋になりたいと思っています。

米山奨学生 として 感じたこと

大阪大学 情報システム工学専攻
世話クラブ：吹田クラブ
テキショウ (中国)

みなさん、こんにちは。吹田ロータリークラブのテキショウと申します。クラブの皆様 大変お世話になっています。現在は大阪大学大学院で建築について研究しています。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

昨年の9月に大学から米山奨学金の推薦をいただき、緊張した雰囲気の中で1月の面接を経て、2月ようやく待ちに待った奨学金合格のお知らせをいただきました。たくさんの仲間が途中で失敗し最終合格に辿り付かないことを目の当たりにすると、自分がどんなに幸運であろうと強く感じました。改めて僕を選んでくださったロータリーの方々へ心の底から感謝したいと思います。

初めて吹田ロータリークラブの例会に参加した時、一人の平凡な学生としてどうやって会社のトップたちであるロータリーの方々と接したら良いか戸惑って、すごく緊張しました。しかし、自己紹介が終わったあと、皆様が親切に声をかけてきて、勉強のこととか、生活のこととか、就職活動のこととかいろいろ聞いていただきました。私が想像していたような、いつも厳しそうな顔をしている社長のイメージを覆し、皆様がむしろ親のように非常に優しく暖かく話してくださいました。

初回目の例会後、クラブの皆様が多忙にもかかわらず、

僕のために時間を作って歓迎会も開催してくださいました。僕たった一人のために、二三十人ものロータリアンの方々が集まってくださって、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。また、8月に国に帰って結婚してきたあと、9月の例会では、カウンセラーの石井さんがわざわざ僕の嫁を例会会場まで呼んでくださって、会場でたくさんの祝福の言葉をいただきました。

おかげさまで、嫁がとても喜んでいました。この半年間の間、私は本当に暖かい大家族に入ったように、充実した楽しい時間を過ごすことができました。

ロータリークラブが社会のために、ずっと奉仕活動を行い続けていることに感銘を受け、私も将来社会のために、何か貢献したいと考えています。私は高校卒業後、日本に留学しにきて、福岡の日本語学校、大阪大学の学部を経て、今年で8年目となります。

初めて日本へ着いた時のことを今でも鮮明に覚えています。福岡空港へ到着した時、初めて飛行機に乗り国を出た私にとって何でも目に新鮮に映ります。

ワクワクした気分で空港から出てきて、ふっと顔を上げた瞬間、目の前に広がる果てのない青空に感動しました。環境破壊が深刻化している中国では、今やこんなにきれいな空を目にすることはほとんどできませ

ん。町並みも道路もとても清潔で、最初は日本の道路は全部新設した道路だと勘違いしたぐらいでした。

どこのお店に入っても、店員さんが元気に「いらっしゃいませ」と挨拶してくれたり、笑顔いっぱいサービスを提供してくれたりしています。

国を出る前の私にとっては、日本社会を知る手段として、アニメを見るぐらいしかなかったもので、本当の日本の姿をなかなか知ることができませんでした。実際に日本にやって

吹田クラブテキショウ

きて暮らしてみると、初めて日本はこんなにすばらしい国なんだと衝撃を受けました。やはり、2つの国同士の理解を深めるためには、民間の人々の交流を拡大することが一番大事なかつ有効な手段だと強く思いました。私は、このすばらしい日本をぜひ中国の人々に紹介したいと思っています。将来、日本の情報の1つの発信源として日中両国の架け橋となって、両国の民間交流の促進に力を発揮したいです。

私のスピーチは以上です。ご清聴ありがとうございます。

ひろげたい！ 人づくりの輪

大阪大学
日本語専攻世話
クラブ：大阪御堂筋本町RC
潘自力 (中国)



面接の際の、「貴方が米山奨学金に応募した理由を聞かせてください」という質問は、未だに記憶に新しいです。緊張気味だった私は、その時このように答えました。「私は、日本にきて、初めは東京で日本語を学びました。その後、毎日語学の勉強と大学の受験準備などに取り組んできました。大学の合格発表は、3月9日でした。先生や友達など周囲の人達の支えのお蔭で、私は無事に志望校に合格しました。

2日後の11日に、いつものように電車に乗って新宿にある家に帰ろうとしましたが、秋葉原駅に着いて電車のドアが開いた瞬間に、駅が揺れていることに気がつきました。その後、どんどん横揺れが激しくなり、車内にいた私は大きな揺れを感じていましたが、こんなに大きい地震を身をもって感じたのは、そのときが生まれて初めてでした。

車内で待つのか、駅をでて避難するのか迷って独り言をつぶやいていた私の様子を見て、隣にすわられていたおばあさんは、『大丈夫、きっと大丈夫』と優しい言葉をかけてくださいました。

その一言は、思い出すたびにいつも安心感を与えてくれます。そのことがきっかけで『いつかはその時にうけたあたたかい親切のお礼を何らかの形で日本に返したい』と考えるようになりました。大学にはいつか

ら、専門を究めるとともに、あの時、いつかは恩返しをしたいと思ったことも忘れませんでした。震災が起きた直後は、大学による震災ボランティア活動の自粛の発令の関係もあり、なかなか直ぐに被災地へ駆けつけることができませんでした。二年たって大学三年生の今、やっとチャンスが見つかって、大阪大学の復興支援ボランティア活動に参加して、現地の状況に詳しい専門の方々と一緒に現地に行くチャンスを得ることができました。

岩手県の野田村というところで復興支援の活動や、現地住民に元気をもたらすお祭りの準備などに微力ではありますが携わりました。その時になって感じたのは、大学生や大学の専門の方々、大学という組織の枠の中にいることや、時間や資金の都合などがあるため、できることが限られています。『もっと、枠を超えた連携はできないのだろうか』と考え始めました。ちょうどその時にロータリー米山奨学生の募集を知りました。

添付された紹介の内容を見ると、『ひろがれ！人づくりの輪』などのスローガンが目にとまりました。枠を超えた関係づくりを支援するロータリー米山こそ、私がしたいことを応援してくれるのではないかと思い、早速応募して所属の学部や大学の選考を経て、今日の面接に至りました。

皆様のお陰様で、ロータリー米山奨学生として現在の大阪御堂筋本町ロータリークラブでお世話になり、また大阪御堂筋本町ロータリーアクトクラブに入ることができ、誠に光栄の至りでございます。

いま、半年前のオリエンテーションを振り返ると、あの時の私は、とても緊張していました。宴会の終盤になって、個人紹介の小スピーチに行くときに、カウンセラーの岡野さんが私の汗だくの手を握って、「大丈夫、大丈夫だよ」と声をかけてくださいました。その言葉が私をとてとても安心させてくれたことを今でもよく覚えています。

それから一週間後、初めて例会に参加して、卓話を聴いて、緊張しながらも興奮していました。その時に卓話していた方は、パリで指揮者をする阿部加奈子さんと、テーマは「音楽を国境を越えて～オーケストラ指揮者の仕事～」となっていました。

異国のフランスで全く言語がわからないなか奮闘していた加奈子さんの音楽を通じた異文化交流の話は、いきいきとしていて、今でも鮮明に覚えています。いつか、こんなふうに日本留学で得られた感動を人に伝えたいと思いました。

のちにちょうどご縁があって大阪中央ロータリークラブでの卓話のチャンスをいただきました。同じ地区に所属しているロータリークラブの間だけでなく、留学生としても異文化交流を図ってクラブの枠を超えた活動もできることのすばらしさを身をもって感じました。

また、現在お世話になっている大阪御堂筋本町ロータリークラブのロータリアンのご紹介で大阪御堂筋本町ロータリーアクトクラブに入会することができました。大阪御堂筋本町ロータリーアクトクラブは、主に30才以下の若い青年たちが集まって、大阪市内を拠点としたさまざまな地域交流やボランティア活動を行う団体です。

毎月に二回例会を開催していますが、毎回の例会には活動報告という時間が設けられています。初めて私が



ロータリーアクトクラブに参加した時に、最近の活動報告として「東北支援」に関する報告がありました。被災地に行ったことのあるわたしにとっては、共感できる場所が多かったです。ほぼ同じ年代層で、大学という枠を飛び出して異なるバックグラウンドや異なる専門をもつ方々との交流ができて、若者ならではのパワーを身をもって感じることができました。

一人一人の人間にできることは本当に小さいかもしれませんが、しかし、異なる分野、異なる経歴、異なる文化・民族などの方々の協力で、一人ひとりの力を合わせれば、きっと大きな力になると信じております。

ロータリークラブは本当に社会にある個々の力を結成する場だと考えています。これからも、分野や文化、民族などの壁を越えたロータリーの活動に尽力したいと思えます。

次世代につなぐ国際親善と ロータリー精神

近畿大学
総合社会学専攻
クラブ：東大阪東RC
金東右（韓国）



こんにちは、米山奨学生の金東右と申します。近畿大学の総合社会学部4年生で、現代社会学と外国語を専攻しています。お世話になっているクラブは東大阪東クラブです。本日はどうぞよろしくお願い致します。

大学卒業を目前にして感じるのは、米山奨学生になれて本当によかったということです。私の日本留学生活は、米山奨学生になる前と後とははっきりと分かれるくらい、ロータリーを通じて本当に貴重な体験ができました。

中でも国際親善とロータリー精神とは何かについて身を以て体験したことが、最も大きくかけがえのない成果だったと言えます。毎月うかがう例会では様々な職種の方々のロータリアンの方々とお話ができます。

ロータリアンの方々は日本のことやロータリーについて、とても分かりやすく説明して下さるので、私もすぐに日本に慣れて、ロータリー活動も積極的にやっけてこられたと思います。

今年の5月、私は第2660地区の推薦で国際RYLAに参加しました。RYLAとは、青少年リーダーシップ養成プログラムのロータリー活動をさします。今年はシドニーに世界の若者たちが大勢集いました。世界

22カ国、71名の参加者たちと、十日ほど共に生活をし、私たちは友好を育みました。国際ライラで国際的なネットワークを広げたことは、私にとって一生の宝物となっています。

また学友会の様々な催しに参加し、米山奨学生を卒業された方々とも楽しく時間を過ごして参りました。先輩奨学生たちと会話をしていると、気持ちが和やかになります。

ロータリー活動を通じて私が心から感じ得たものは、「外国はあっても国境はない」、つまり、どんな国の人々とも、国境を越えて通じ合えるという真実です。この活動に取り組んでいる方々はみな、地球規模の広大かつ柔軟な考えを持っておられます。

高い水準の職業倫理を持って地域社会で職業奉仕をなさるロータリアン、そしてロータリーのメッセージを次世代に伝えるロータリアン。そのみなさんがそれぞれ、国際親善大使だと思います。2年間、米山奨学生として、僅かではありますがロータリーを体験させて頂きました。

ロータリーのシンボルマークである歯車は世界に広がり、堅くつながり合っています。一つの歯車では、い



くら能力が優れていても空回りするだけですが、二つ、三つと噛み合っていけば、きっと無限の力を発揮できるでしょう。

ロータリーが大事にする国際親善や職業奉仕の価値観は、世界中で共有されている、その事実をロータリー活動を通して身をもって知りました。

日本のロータリークラブを経験できたこと、世界の人々と出会えたこと、また、幅広く国際活動ができたこと、毎月の貴重な奨学金で留学生活の質を高められたこと等、その全てがみな、米山奨学生であったからこそはじめて、達成し得たことだと感じています。

大学を卒業した後、私は軍隊に入るために一時期帰国致しますが、除隊後はいつでも日本にきて再びロータリークラブを訪れたいと願っています。そして韓国では後輩や所属するコミュニティーに、経験した日本を熱く語り伝え、両国の深い友好を図って参りたいと思います。願わくば、私も将来ロータリアンとして国際親善の価値観を共有し、働いてゆきたいと思います。

日本留学の期間、皆さんから頂いた沢山の御恩に報いるために、私は次世代へこの思いを継承していこうと

決心致しました。これから留学に行こうと思う人や、豊かな国際経験を望んでいる人に私は力の及ぶかぎり手を差し伸べ、役立っていきたくと思います。お世話してくださったロータリアンの方々と同じく、優しいまなざしを持ってロータリー精神を次世代につないでいきたい、そう願っています。

以上でスピーチを終わらせて頂きます。
ご静聴ありがとうございました。



Chapter 03 年間行事

2014-2015 年度米山奨学会イベント行事

報告書類

2013 年度決算書.....	37
2014 年度予算案.....	38
2014 年度行事.....	39

2014 年度行事報告

2014 年度米行事代表写真.....	40
初韓国総会～ 関西チーム 9 名.....	42
台湾台北米山学友総会に 参加した感想について.....	44
2014 年度米山総会及び 新規奨学生歓迎会報告書.....	46

ロータリー米山奨学生学友会 (関西)

2013年度会計収支決算書

自2013年7月1日
至2014年6月30日

収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	963,293	
特別補助金	260,000	国際ロータリー第2660地区
特別補助金	147,351	2660地区米山奨学委員会
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
総会収入	475,000	
総会寄付金	27,000	
総会補助金	183,000	米山記念奨学会@3,000×61
懇親会収入	919,000	
懇親会補助金	66,000	米山記念奨学会@3,000×22
利息収入	90	
総計	3,140,734	

支出の部

科目	金額	備考
運営費	82,192	
交通費	24,850	
会報作成費	239,360	
総会費用	1,141,839	
懇親会費用	1,140,783	
通信費	16,266	
雑費	1,200	
次年度への繰越金	494,244	銀行 494,244円、現金 0円
総計	3,140,734	

以上ご報告申し上げます。

2014年7月6日

会計 東 林 華

会計監査報告

会計監査の結果、会計収支決算書は適正と認めます。

会計監査 荘園 福松



ロータリー米山奨学生学友会 (関西)

2014年度会計予算 (案)

自2014年7月1日
至2015年6月30日

収入の部

科目	金額	備考
前年度繰越金	494,244	
特別補助金	310,000	国際ロータリー第2660地区(6/26入金)
特別補助金	154,560	2660地区米山奨学委員会(6/27入金)
総会補助金	210,000	米山記念奨学会 @3,000×70
会報補助金	100,000	米山記念奨学会
懇親会補助金	90,000	米山記念奨学会 @3,000×30
総会収入	700,000	
懇親会収入	800,000	
利息収入	200	
総計	2,859,004	

支出の部

科目	金額	備考
運営費	200,000	
交通費	20,000	
会報作成費	250,000	
総会費用	1,000,000	
懇親会費用	1,000,000	
通信費	40,000	
雑費	10,000	
次年度への繰越金	339,004	
総計	2,859,004	

以上ご報告申し上げます。

2014年7月6日

会計 東 林華

2014年度(2014-2015)米山奨学生学友会の年間スケジュールです。

日付	行事内容	場所
2014/4/8	2014年度米山新奨学生オリエンテーション	ヴィアール大阪
2014/5/18	2013年度米山学友会第3回役員会	第2660地区ガバナー事務所
2014/7/6	2014年度米山総会及新規奨学生歓迎会	KKRホテル大阪
2014/9/6	夏懇親会：一泊二日	びわ湖大自然を満喫 耐力/体力大会所
2014/9/27	朗読劇 (The 米山??) 撮影会	希来里 (イコーラムホール)
2014/10/12	地区奨学金委員会主催 米山奨学生レクリエーション大会	宝塚劇場
2014/11/8	第4回 国際ロータリー第2660地区 米山奨学生ふれあいスピーチコンテスト応援参加	ホテルニューオタニ大阪
2014/11/24	(母子家庭-X'mas in USJ) 池田くればはロータリークラブ主催。 楽しいクリスマス会 in USJ に応援予定。	ユニバーサルスタジオ
2014/12/5	R I 2660地区2014～2015年度地区大会	都シェラトンホテル
2014/12/5	R I 2660地区2014～2015年度地区大会	フェスティバホール
2014/12/6	2014年年末忘年会	Sound Boots
2014/12/27	(第12回ロータリー X'mas in USJ) 大阪エバ-サルティロ-クラブ主催。 施設の児童を招待し、学友会は一日親として：応援予定。	ユニバーサルスタジオ
2015/1/17	米山奨学会選考試験の応援参加	大阪YMCA
2015/1/25	2014年米山学友会第2回役員会	6年3組梅田分校
2015/1/25	企業見学会-大澤本家酒造(株)	伝統産業 日本酒貯蔵工場-蔵見学
2015/2/28	地区奨学金委員会主催の米山記念奨学生終了式、歓送会	ハイアットリジェンシー大阪
2015/3/14	2015～2016年度 米山感謝祭	KKR大阪ホテル
2015/2-5月	関西学友会会報(31号)	編集・校正・印刷・図案



2014.04.10
オリエンテーション

米山総会 & 新規奨学生歓迎会
「飲水思源」



2014.07.17 総会

2014.09.07 夏懇親会



国際ロータリー第2660地区
米山奨学生レクリエーション大会



2014.10.1 宝塚観劇

Revolution 2014
韓国Rotary米山記念奨學學友會 (KRYS) 定期總會
・日時：2014年11月15日(土曜日) 17:00
・場所：THE CLASSIC 500 (GRAND BALLROOM)
・主催：韓国Rotary米山記念奨學學友會



2014.11 韓国総会



2014.12 台湾総会



2014.12.06 忘年会

2014.12.5 地区大会



2015.02.28 終了式

国際ロータリー第2660地区
米山奨学生 終了式・歓送会

2015.01.25 企業見学



2015.03.14 感謝祭



国際ロータリー 第2660地区
米山感謝祭

初韓国総会～ 関西チーム9名

何玉翠 手記



2泊3日LCC航空で初韓国総会に参加、関西チームとして米山奨学委員、学友、奨学生そして台湾学友も含め一行9名の現地集合です。韓国語はできないでも現地に学友が待っている、不安の気持ちよりもわくわく楽しみです。

韓国に到着後、即バスで空港からホテルへ移動、右も左も分らない私たちがでもテンションだけは高い。早く総会の開始と皆さまに会えることで胸に期待の気持ちがいっぱい詰めて・・・でも『焼肉・キムチ・参鶏湯・・・』食べ物ばかりとあっちこっちリクエストもあって、短い3日間精一杯遊びましょと決めた全員でした。

11月のソウル気温5度～マイナス2度やや寒いではなく、寒いです。総会まで半日観光、自由散策、しかし朝食から昼食、金さんの案内で食べ物中心の旅になって満喫していました。ソウルでの移動はタクシーを利用、ソウルは広いあるいは道が知らないか、道迷わず目的地に連れてくれる運転手は一人もいない・・・これは唯一のボヤキです。渋滞しながら、やっと総会会場 The Class 500 Hotel に到着。



綺麗なナレーションで開始、全会長、金副会長とは大阪総会以来の再会、そして関西の終了生李賢君も初参加、関西学友に会えることにびっくり、李君は帰国後、仕事も落ち着き、今回は初韓国総会に参加、私たちと会えることも非常に嬉しく感動していました。

司会、韓国学友会黄セミー財務理事の進行で、韓国米山学友会全炳台会長の挨拶から、米山記念奨学小沢一彦理事長の激励言葉で開会致しました。日本から22名の参加もあって、全会議は日本語で行われました。和気あいあい、韓国で活躍している学友の作品発表やマジックショーを見ながら楽しい雰囲気の中、進行していました。そして、全会長と韓国学友たちと12月の台湾米山総会と一緒に参加することを約束し、皆さまと再会できることを期待しています。

3日間韓国の旅、韓国米山学友会総会の出席により韓国学友との友情が深まり、そして、一緒に韓国へ参加している皆さまとの絆も強くなって、共通の思い出ができ、なよりの国際交流と思います。



台湾台北米山学友総会に参加した感想について



大東 RC
学友 付翠紅 (中国)



去年 12 月 12 日～ 14 日まで、関西米山学友会の学友の一名として、関西学友会の何会長及び役員、現役奨学生などと台湾米山学友総会にて来ました。今回台湾台北米山総会に参加するのが初めてです。勿論、台湾に行くことも初でとても楽しみにしていました。

そして、12 月 12 日朝 8 時前の飛行機に乗って関西米山学友会のメンバーと一緒にわくわくしながら、台北へ飛んでいきました。飛行時間は 2 時間ちょっとでした。台北桃園国際空港に着くと空港バスを乗って市内に向かいました。バスが走る途中、目に映った風景がとても懐かしいです。まるでふるさとに帰ったようです。

台北市には至り所で日本のファストフード店やコンビニがあります。店舗のデザインなどが日本の店と同様なので驚きました。まさに、日本と中国文化の結晶だと思います。

台北の夜市の屋台は前からテレビや友達にとっても豊富



に美味しいと聞きました。百聞は一見に如かずだから、台北市には最も規模の大きい士林市場に同行者と一緒に自らの目で確かめました。地下 2 階と地上 1 階に屋台店がずらりと並んでいます。来客の 80% 以上は若者です。中国内陸で生まれ育ちの私にとってグアバやシュガーアップルなどの熱帯フルーツはとても魅力的で、いっぱい食べてきました。フルーツ以外に、臭い豆腐や蚵仔煎（オアチェン）などの台湾ならではのグルメを味わえました。

台北学友総会にて台北米山学友たちの一年間の活動報告を聞き、とても感動しました。感動したのは、当時日本に留学した時にもらった恩を忘れず、日本からの留学生に奨学金を支給し支援することです。その時、私もし中国に帰ったら中国に留学する日本の学生に何か手伝えることがあったら精一杯に手伝おうと思いました。

今回台北学友総会にて、同じ留学経験のある方々と交流することができて、本当に良かったです。関西米山学友会の皆さんのおかげで楽しい時間を過ごしました。



2014 年度米山総会及び 新規奨学生歓迎会報告書

場所：KKR ホテル大阪
日付：2014 年 7 月 6 日
17：00～20：30 分



ロータリアン 83 名、現役奨学生 37 名、米山学友 46 名、家族 4 名合計 170 名

◆ 2014 年度総会 ◆

今年度総会テーマ：『飲水思源』

『飲水思源』：物事の基本を忘れないこと、また他人から受けた恩を忘れてはいけないということ。

私達米山学友会、米山学友の源は米山記念奨学金制度、この奨学金制度がなければ、ロータリアンの皆さまとの出会いもなかったでしょう！この奨学金制度の由来を感謝の気持ちで朗読劇を演出しました。学友、奨学生が朗読チーム、音楽チーム、演出チームに分けて、そして『米山梅吉』翁に対する敬意、説明もなく、絆が強くなって、再認識できました。学友らの熱演に、会場からは惜しみない拍手が送られました。

今年も台湾・韓国・タイ・国内 2640 地区、2650 地区などと新規関西米山奨学生学友会会員の出席・そしてたくさんのロータリアンも多数駆けつけ、総勢約 170 人が出席する盛会となりました。

ご応援、ご参加の皆さま、ありがとうございました。

- 2014 年総会様子：<https://www.facebook.com/yoneyama2660> にご確認

Chapter 04

会報に関して

年に一度の米山学友会について

学友からの一言

学友会の皆さんより 48

募集要項

来年度 32 号の募集要項について 50

編集後記

編集チームより 51

杉本麗華

林小微

何玉翠

單雅婷

付翠紅

李麗俞

梁榮友

楮斌兵

戈璐

林錫璋

東林華

金恩貞

潘振興

徐梟

孫屹

祝方悦

常 炜

劉春倩

ミンスラ

黄詠翔

甘 耿

文 小 鵬

マノハル

王 燕 芳

学友からの一言

私たちは米山という大家族の中で色々活動していますが、ロータリーから頂いたご縁を大切に、より多くのOBやOGが参加できるように誘い合い、ロータリー精神を広めて、世界平和に貢献できるように頑張りたいです。

今年も学友と新奨学生と一緒に米山パワーを出します。

人と人とのつながりの大切さを知りましたし、米山の優秀な方々からいろんな事を勉強になりました。今後も米山奨学生であった事を誇りを持って社会で頑張っていきたいです。

50周年と苦闘した一年でした。「六十周年」ってあるのかな？

関西学友会の発展とご活動が益々神様の豊かな祝福の中で続けられる、よろしくお祈り申し上げます。

皆さんはキット何か期待されていて、日本の学校に入ってきたのではないのでしょうか「夢」を持つなら、キット前向きに前に進んでいく力になります。先輩としてのアドバイスですが、どんな期待と目標があっても、皆が一緒で人生の道はいつもスムーズに行けるわけではありません。しかし、落ち込んでいるこそ、「人生の進むべき道」が見えてくるわけです。人間として一人で生きていく訳ではありません。確かに、「目標」を達成することも、必ず家族や友達や先生、米山の方々に相談してもらうのは重要です。確かに、「目標」を達成することには、生

台湾学友会に参加する時、日本の留学生は台湾標準語で私たちは日本語で話したことが一生忘れません！去年は米山国際の輪を一番実感できた年です！今年米山にも自分の分野にも力を尽くしましょう！

学友会は多国多文化の友人を作る為の絶好の場です。この輪は素晴らしい将来の人脈と世界平和につながります。皆様、今年も楽しく交流していきましょう。

2015年度のテーマは『実践躬行』(じっせんきゅうこう)だ

去年は変動激しい一年でした。千葉から京都に引越して、最初の人間関係(友達など)はゼロとも言えます。いまは友達たくさんいます。去年の米山学友会の行事にたくさん参加させていただきました。お陰様で、学友会の中、好きな人も出来ました。今後の夢は、次した夢ではありません。

今年一年間を振り返って、学生としていろいろ新しい挑戦ができたと思います。来年度は昨年以上に経験を増やしていきたいです。

夢の途中で、巡り合う出会いと別れ、胸に刻み前へ踏み出して行くと

中国天津の鉄道第三勘察设计院公路分院の仕事を決まりました。

5月上旬に行きます。

大学の時に米山奨学生に選ばれ、大阪北ロータリークラブに所属され、2年間の奨学生生活が始まりました。月に一回の例会に参加し、自分の生活近況を報告し、悩みがあれば、たくさんの方に相談のってくださったり、嬉しいことがあれば、みんなが喜んでくださったりするので、とても親切で日本のお父さんのような存在になっています。こうした留学生にとって幸せな環境の中、最初は単に日本人だけのグループに入っていたが、そこで、奨学生になってから、初めて関西学友会の存在を知りました。学友会の会員は現役奨学生と私たちお互いに知って、友達になって、恩返し感謝を聞いて、留学生が一人になって企画したりしていました。ともに頑張っていくことをサポートしていただくのです。例え、海外の総会と一緒に参加したり、恩返しの感謝祭を聞いて、留学生が一人になって、日本での兄弟のように感じています。ここでの3年間、ロータリーソングの歌詞「つくるとも輪」のように、自分の輪がどんどん広がっていき

一言だけ簡潔 W、今年も楽しかったです！来年もよろしくお祈りします！

毎日を創りましょう！

Tomorrow hopes we have learned something from yesterday. 後悔のない人生が変わります。もっと一緒に行動に参加しましょう！

2年間の海外生活を経て、昨年学友会に「復帰」したら、多くの新学友メンバーと出会うことができました。これから、学友会が新しい友達ができることに、楽しみにしております。

皆さんはキット何か期待されていて、日本の学校に入ってきたのではないのでしょうか「夢」を持つなら、キット前向きに前に進んでいく力になります。先輩としてのアドバイスですが、どんな期待と目標があっても、皆が一緒で人生の道はいつもスムーズに行けるわけではありません。しかし、落ち込んでいるこそ、「人生の進むべき道」が見えてくるわけです。人間として一人で生きていく訳ではありません。確かに、「目標」を達成することも、必ず家族や友達や先生、米山の方々に相談してもらうのは重要です。確かに、「目標」を達成することには、生

台湾学友会に参加する時、日本の留学生は台湾標準語で私たちは日本語で話したことが一生忘れません！去年は米山国際の輪を一番実感できた年です！今年米山にも自分の分野にも力を尽くしましょう！

学友会は多国多文化の友人を作る為の絶好の場です。この輪は素晴らしい将来の人脈と世界平和につながります。皆様、今年も楽しく交流していきましょう。

募集要項

2660 地区米山学友会関西地区奨学生の皆様、

本学友会の活動をまとめる会報第 32 号の入稿についてお願いいたします。

入稿について以下の事項にご注意ください。

テーマ	「私の夢について」、「来日して自分の国(ふるさと)と違うなと思ったこと」 どちらかを選んでください。
字数と枚数	約 1000 字
内容	基本的には自由(エッセー・感想文なども可)です。 ※研究レポートを提出することは、お控えください。
言語	日本語または英語
原稿締切り	2015 年 12 月 30 日 時間厳守でお願いいたします。
送付方法	原稿は PC メールでの入稿をお願いします。 ※メールアドレス :yoneyama2660@gmail.com
注意事項	1. テーマを必ず冒頭にご記入をお願いします。 2. テーマの下に、所属大学および専攻・名前・国籍、 と現・元世話クラブの順番でお願いします。 (例:○○○○大学○○専攻 大阪花子(日本)、世話クラブ:○○RC) 3. 文章の最初に簡単な自己紹介をお願いいたします。 4. 提出期限を厳守してください。 5. 作文を提出する際、顔写真(JPEG)も一緒に送ってください。 できない場合、上記のメールアドレスまでご連絡ください。

編集後記 2015 会報編集チーム

内容構成：何玉翠

デザイン：黄詠翔

編集協力：單雅婷

撮影協力：鍾允順

DTP デザイン・グラフィックデザイン・撮影：黄詠翔より

皆様、こんにちは。学友の黄詠翔と
もうします。今年で三年目に会報の編
集を参加させていただきまして、とて
も光栄だと存じております。

普段僕は学友会のイベントでよくカ
メラマンとして写真を撮っていました
が、撮ると、使う(会報の編集)
のとは違うことがよくわかりました
(笑)。三年間の経験で、これからの会
報素材をどう用意していくのと、イベ
ントの時にどんな写真が撮っておく
べきなのかがすごく分かるようにな
りました。

それで、ますます会報の重要性が分か
るようになって、この一年間、学友、
特に現役奨学生の皆さんに、
いくら活躍できたのか、自分でどれ

くらい努力して、成長したのか。勿
論、僕に対する一番大切なのは、学友
として、世界中の友達をいくら増やし
たのか、どれだけ遊んで楽しんでいた
のこともとても大切だと思います。そ
して、皆さんのこの魅力的な一年の学
友・奨学生生活を写真で記録して、さ
らに会報という年に一度しか発行し
ない、形のある思い出になります。

いろいろ言いましたが、はっきり言
いますと、僕もそうですが、これから
もまた機会があったら、カメラマンと
しても、学友としても、学友会のイベ
ントでたくさん写真を撮って、楽しん
でいきたいと思っています。今後の会報は
僕が編集しなくても、カメラマンじゃ
なくても、会報の編集者のために、た
くさん写真を撮らせてあげて欲しい
です(笑)。

最後になりますが、これからも皆様と
楽しい思い出を作っていきますよう
に、何卒よろしくをお願いいたします!



編集協力・校正：單雅婷より



今回は会報使うの写真的収集及び内容校正を担当させて頂く学友の單(TAN)です。

米山過去の写真データから1枚1枚の写真を見て、沢山の思い出を出しました。

夏懇親会や企業見学や感謝祭などの写真皆の笑顔は素敵です。

米山の楽しさは自ら活動に参加しないと分からないです。

なので、今会報を見てのあなた、現役奨学生、学友是非米山の活動を参加して、
米山の楽しさを体験してください。

撮影・写真提供：鍾允順より

2014 年度の奨学生台湾出身の鍾允順です。この度、自分の写真を会報に使っ
ていただき、本当にありがとうございます。写真は長年からの趣味です。そ
れは変わり続ける時間を止める手軽い手段と思います。

私はカメラを構えながら奨学生の生活を過ごしました。それによって今まで
と違った写真的側面を感じました。それは、記録でありながらもコミュニケーション
のツールでもあります。難しいけれども楽しい経験でした。

この一年たくさんの思い出を残しながらも、同時に形としての写真も残しま
した。もし写真を見る皆さんに小さな幸せをもたらしたら、本当に幸いです
。最後にいつも支援してくださった米山奨学会及び関西学友会の関係者
の皆さんに、心から感謝しております。

私語禁止

マナーを守ってください



31 YONEYAMA
KANSAI 

ROTARY YONEYAMA SCHOLARSHIP
ALUMNI ASSOCIATION KANSAI 2014-2015